

6

今尾地区

1 計画の重点課題

- ① 三世代交流サロンの実施
- ② 近隣ボランティアによる訪問システムづくり
- ③ 総合案内窓口の充実



2 今尾地区の人口

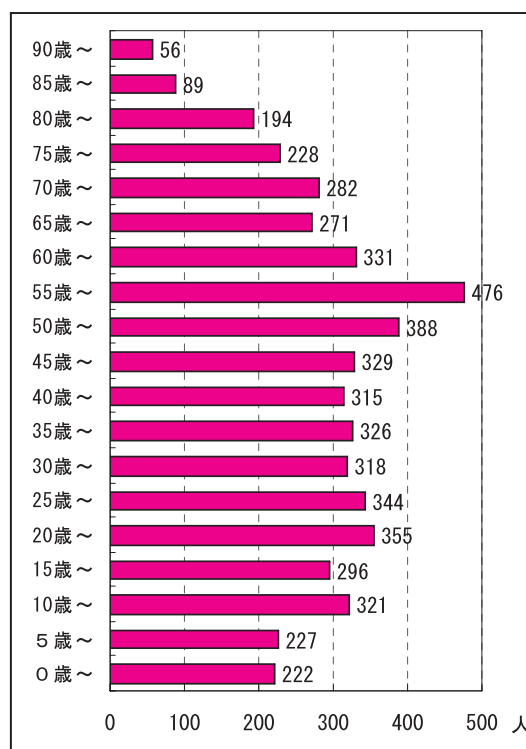
	海津市	今尾地区
人 口	40,071人	5,368人
対人口比	100.0%	13.4%
年少人口	5,216人	770人
年少率	13.0%	14.3%
高齢者人口	8,487人	1,120人
高齢化率	21.2%	20.9%
後期高齢者人口	4,060人	567人
後期高齢化率	10.1%	10.6%

平成20年2月1日現在

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口



6
今尾地区

3 今尾地区の社会資源

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津市役所平田庁舎	海津市デイサービスセンター平田	今尾小学校	稲田クリニック
平田総合福祉会館やすらぎ会館	グループホーム天の花	海津特別支援学校	後藤医院
ふれあいセンター	デイサービスセンター千の郷		辻中医院
福祉センター	今尾保育園		かわい整形外科
ふるさと会館	西島保育園		スワキ歯科医院
生涯学習センター			吉田歯科医院
			ホワイトオタリ歯科医院

今尾地区福祉活動計画

今尾地区策定委員会

No.	課題・要望		タイトル
1	子どもと大人が互いに挨拶をしない	1	世代間の 交流不足
2	ゴミ出しに困っている高齢者がある		
3	近隣の助け合いが十分行われていない		
4	高齢者が多くなってきている	2	高齢者の孤立防止が 不十分
5	地域との交流が出来ない高齢者が多い		
6	災害時にどうしたらよいかわからない高齢者が多い		
7	サロンに集まる男性が少ない		
8	動けなくなった時どうして良いかわからない	3	高齢者世帯 の不安
9	介護が必要になったら考えると不安		
10	要介護認定がもらえるかわからない		
11	ショートステイに行くと知らない人ばかりで不安		
12	急に病院に行きたいときに車の運転が出来ないと不便		
13	電気機器が使えない・修理が出来ない		
14	古い木造住宅なので地震・台風で倒壊しないか心配		

「小地域でのふれあい活動」～人と人のつながりを育む～

解決方法		実施主体			
		住民	地域	社協	行政
★	三世代交流サロンを開く		◎	○	○
	地域行事への積極的な参加	◎			
	地域で集まる場所代の見直し				◎
	三世代が集えるスポーツなどの行事を作る		◎		○
	あいさつ運動の実施	◎			
	ゴミ出しを手伝うなど声掛けの関係づくり	◎	○		
	個人情報取り扱い基準の見直し				◎
★	近隣ボランティアによる訪問 (定期的に訪問するシステム作り)		◎	○	
	見まもり体制の充実 (新聞配達・郵便局・警察等との連携)		◎	○	○
	ボランティアサークルを作る	◎	○		
★	「どこに相談したら良いか」を聞ける総合案内窓口 (会社の受付の様なもの)の設置				◎
	「シルバー人材センター」「まごの手クラブ」など 福祉サービス機関のPR			○	◎
	公的サービスの情報提供の仕方を工夫して欲しい			○	◎

地区の課題（今尾地区）

(1) 高齢者

- ・高齢者のゴミ出しが重くて大変である。
- ・近所に高齢化した家族が多く、何かあったときは不安である。
- ・敬老会の尾張温泉について。近くで少人数で行った方がふれあえる。
- ・家電などの修理が出来ず、困っている。

(2) 高齢者（介護）

- ・老老介護の不安。
- ・本人も大変だが、介護者にも目を向ける。
- ・家族に介護が必要になったら心配。

(3) 生活（環境）

- ・耕作を放棄された畑に雑草が茂り迷惑。
- ・道路の段差が歩きにくいなど危険箇所を見守って欲しい。
- ・街灯がなく、夜道が暗い。

(4) 生活（ゴミ）

- ・夜になるとゴミを燃やす人がいる。ルールが守られていない。

(5) 生活（迷惑）

- ・迷惑駐車・マナーが悪い。
- ・犬の散歩のマナーが守られていない。

(6) 地域

- ・高齢者から幼児まで幅広く集まる場所づくり。
- ・地区自治会で話し合う機会を増やす。
- ・サロンの参加者が少ない。もっとPRをしなければいけない。
- ・困っている事を気軽に相談出来る場所が欲しい。
- ・寝たきりの人や外出できない人のためのふれあいの場が無い。
- ・農地を利用して地域で野菜を作る。

(7) 災害

- ・災害時の弱者の救援組織作り。
- ・災害時の集合場所に設備が整っているのか。
- ・災害時に助け合うグループを作る。
- ・災害時避難情報が伝達されるか心配。

(8) 医療

- ・夜間・休日の医療体制が不十分。
- ・小児救急体制は整っているのか。24時間対応できる病院があるのか。

(9) 子ども

- ・子どもたちが挨拶をしない。大人もしていないのでは？大人が率先して挨拶をしないとけない。
- ・子どもが安心して遊べる場所が欲しい。

(10) 子ども（登下校）

- ・広域バスを登下校に利用できないか。
- ・送迎時間が一緒、車で一斉に送迎となる。駐車場が混雑するため危ない。

(11) 交通

- ・小回りがきくタクシーをチケット導入してみてはどうか。

(12) 施設

- ・暇なときに誰もが気軽に行ける場所があると良い。

7

海西地区

1 計画の重点課題

- ① 防災活動を充実する
- ② 三世代交流を推進する
- ③ 見守り活動を充実する
- ④ あいさつの輪を広める



2 海西地区の人口

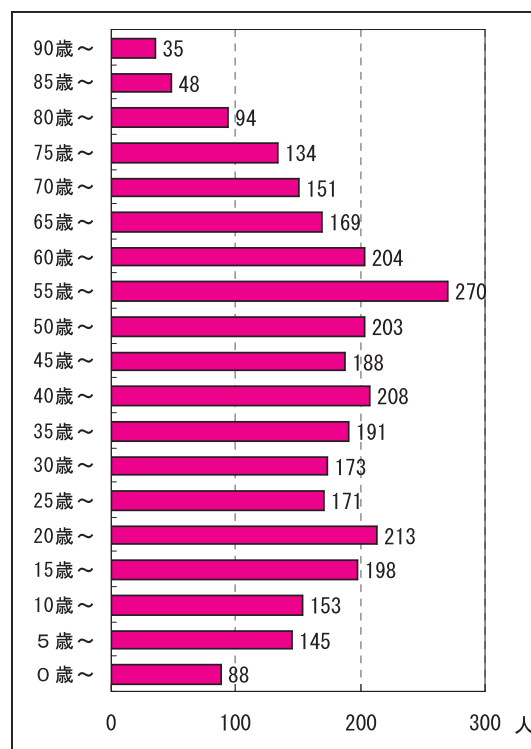
	海津市	海西地区
人 口	40,071人	3,036人
対人口比	100.0%	7.6%
年少人口	5,216人	386人
年少率	13.0%	12.7%
高齢者人口	8,487人	631人
高齢化率	21.2%	20.8%
後期高齢者人口	4,060人	311人
後期高齢化率	10.1%	10.2%

平成20年2月1日現在

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口



7
海西地区

3 海西地区の社会資源

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津市平田海西公民館	海西保育園	平田中学校	佐久間医院
クレール平田(道の駅)		海西小学校	寺倉医院
平田リバーサイドプラザ			

海津市地域福祉計画 海西地区活動計画

◎推進課題：防災

〈自助〉	〈共助〉	〈公助〉
家族で避難場所を確認する	自主防災組織を作る	緊急通報システムの利用、PR
日頃から隣近所に声をかけ、どこに誰が住んでいるかを知る	民生委員、福祉推進委員を中心に「要援護者の見守り」を推進する 災害時に備え救援物資を地区、自治会で確保する 各地区の人数を把握する	要援護者の情報を、必要に応じて把握出来る体制整備
水・食料・防災グッズを準備しておく	家具の転倒防止を推進する	
防災に対する意識向上を図る	防災に対する意識向上を図る →交流の場において防災、消防、高齢者等について話し合う →子どもたちも一緒になって、映画を見たり、話し合ったりする	消防署・警察署の確保

◎推進課題：三世代交流

〈自助〉	〈共助〉	〈公助〉
自分から進んで挨拶や声かけを行う	三世代交流できる行事の開催 →小学校と地域の合同運動会の実施等 交流事業の活発化推進	交流できる行事の開催
人を思いやる心を育てる	自治会、ボランティアの協力を得てサロンの立ち上げ、活性化を図る 交流できる場所や話をする機会をつくる（井戸端会議でも良い）	三世代交流の出来る場所の提供
近隣と話をする機会を設ける	交流の場において関連分野の講習会を行う（防災、消防、高齢者、交通安全等） ボランティアを増やす	

◎推進課題：高齢者の見守り ～理想でもあり、要でもある～

〈自助〉	〈共助〉	〈公助〉
昼間独居者が多い地区である →自分から進んで挨拶、声かけを行う →1人で危険な高齢者へ言葉かけ、見守りをする	ボランティア活動の充実を図る ----- 地区サロンの開催 →自治会、老人会の協力を得てお楽しみ会等、年に何回か開催する →定期的なお茶飲み会など、集会所に集まる機会を作る	高齢社会に向けた住宅内のバリアフリー化の推進 ----- 高齢者、身体障害者用トイレの設置、増設
高齢者やひとり暮らしの方の話、意見を聞く	高齢者、要援護者の見守り隊結成！！ →民生委員、福祉推進委員、ボランティア、自治会の各担当者等で地域全体で取り組む	関連する講習や相談会の開催 →防災、交通安全、高齢者福祉等
防災グッズの用意	NPO法人、ボランティア、地元スーパー、企業などの協力を得て移動マーケットを作る	サロン立ち上げの支援、協力

7
海西地区

◎推進課題：挨拶 ～挨拶で広がる人の輪・心の輪～

☆挨拶の輪を広める事の大切さ：人と人とのつながりの源であり、自然に誰もが挨拶を交わし合えるようになりたい

〈自助〉	〈共助〉	〈公助〉
家庭内において「家族で挨拶」することを大切にする →おはよう、ありがとう、ごめんなさい、いただきます、おやすみ	挨拶推進PRのチラシ配布 →学校、サークル、策定委員会、〇〇会等で集まる機会にPR、呼びかけを実施	挨拶推進PRのチラシ配布
挨拶を犯罪防止に繋げる意識を持つ →知らない人、他地域の人にも挨拶する →知らない人が挨拶してきた時は離れた所から大きな声で挨拶する	PRの発信源を増やす 身近な犯罪を防ぎ、安全で安心な地域社会を目指す	保育園や学校、関係機関へ「あいさつ運動」推進の呼びかけ
お金をかけず、誰もがすぐに取り組める「挨拶運動の実施」		行政の支援を得た情報発信や呼びかけの実施
自分から進んで挨拶し、相手を理解する	挨拶や言葉を交わし合う『場』があること（普段自然に顔を合わせている場を大切に）	社会福祉大会等で、挨拶運動への取り組みの認定や表彰をする
挨拶からコミュニケーション、三世代交流に繋げていく		

地区の課題（海西地区）

（1） あいさつ

- ・大人であるがあいさつ出来ない人は多い。
- ・子ども達とのあいさつ。

（2） 介護

- ・家族に介護が必要になったら不安。どこに相談したらいいか？
- ・突然倒れた時・病気で寝たきりになった時不安である（ひとり暮らし）。

（3） 高齢者・障がい者

- ・高齢者が集まって話をする場所がない。
- ・お年寄り・身体障がい者が気軽に外へ出られる街に。
- ・身体障がい者用トイレ（洋式トイレ）が少ない。

（4） 個人情報

- ・要援護者の情報、収集が難しくなった。

（5） 防災

- ・災害時に助け合うグループを作る。
- ・災害の時どうしてよいか分からない。

（6） 三世代

- ・三世代の交流事業がなくなってきた。
- ・三世代間の交流ができる場所、機会を作る。

（7） 近 隣

- ・向こう三軒両隣のお付き合いを密にする。
- ・家の周りの人との関わりが少なくなった。

（8） 行 事

- ・地域交流の場が減少（運動会、お祭り）。

（9） ボランティア

- ・地域・地区にボランティアを増やす。
- ・ボランティア活動がもっと充実できたらよい。

（10） 児 童

- ・安心して通える学校に。

（11） 環 境

- ・街路灯が少ない、夜道が暗い。

（12） 車

- ・通学路等を含め道路端の草が刈ってなくて邪魔になる。
- ・屋敷の木の枝が道路の方へはみ出していて通行の邪魔になっている。

（13） 公共施設

- ・遊具の安全確認。
- ・公共施設にバリアフリー化されたところが少ない。

（14） 交 通

- ・市バスのルートが不明瞭で利用者が少ない。
- ・買い物に行くのが大変、移動マーケット。
- ・車に乗れないお年寄りが困らない町・地区に。

（15） 盗 難

- ・神社、お地蔵さんのお賽銭が無くなる。
- ・野菜の盗難が頻繁にある。

（16） その他

- ・A E Dの使い方を教えてほしい。

8

下多度地区

1 計画の重点課題

- ① 地域行事で交流を深める
- ② 見守り活動を充実する



2 下多度地区の人口

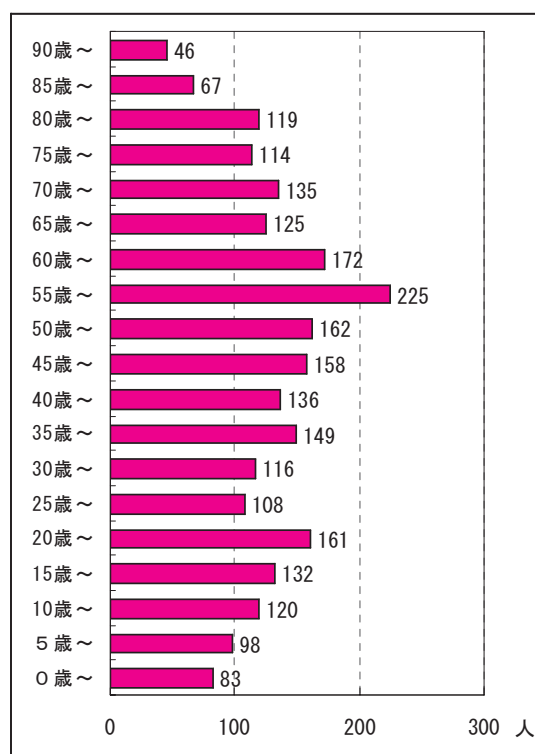
	海津市	下多度地区
人 口	40,071人	2,426人
対人口比	100.0%	6.1%
年少人口	5,216人	301人
年少率	13.0%	12.4%
高齢者人口	8,487人	606人
高齢化率	21.2%	25.0%
後期高齢者人口	4,060人	346人
後期高齢化率	10.1%	14.3%

平成20年2月1日現在

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口



8
下多度地区

3 下多度地区の社会資源

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津市みかげの森「プラザしもたど」	長寿の里・南濃（特養）	下多度小学校	平松医院
北部コミュニティセンター	下多度保育園	下多度小学校付属幼稚園	養南病院

【課題・解決のまとめ】

分 野	重点課題	課 題	自 助(自分たちでできること)
A. 生活環境	○	野生生物 ★交通の利便性 道路に関すること 公園 人口 行政 財産に関すること 公害 衣・食に関すること	★車中心の生活を見直す(公共交通機関の利用、バス、鉄道など)
			○見方、考え方、生活の仕方を自らが変える(否定的、悲観的→肯定的、楽観的へ)
B. 地域交流	◎	★交流の機会や場 ★世代間・人同士の交流 ★近隣・親戚の交流	○地域のイベントに積極的に参加する
		ボランティア活動に関すること	○ボランティア活動に積極的に参加する
		地域性・人間性に関すること	○各家庭で地域へのあいさつをするようながす

○＝下多度地区重点課題、◎＝市全体で取り組む重点課題

解決方法	
共 助(地域でできること)	公 助(行政、社協でできること)
★公共交通機関の利用促進活動	○公園の設置
★公共交通機関の経営支援	○過疎・少子化対策
○高齢者の生活支援講座 (ひとり暮らし高齢者の知恵)	○身体障がい者対策(バリアフリー)
○被支援者のネットワーク充実	○防災無線と同様の情報サービスの提供
○見方、考え方、生活の仕方を地域全体で変える (個人個人の集合体としての地域)	○車中心の生活が進んでいるので道路行政を見直してほしい
○個人で言えないことを地域が代弁する	○バス運行の改善(住民との話し合い)
○魅力ある地域づくり	○企業誘致→雇用増(人口、財産)
	○宅地増設
	○防災事業としてえとらえてもらうよう依頼(除雪、狭い道の拡張)
○イベント(伝統的行事などを続ける)の企画・立案 をする。(北部地区運動会など)	○イベントの企画・立案をする(公民館活動・サークル活動等)
○老人クラブ、子ども会等各種団体の交流の場の企画	○サークル活動を広報による紹介をする
○ウォーキングコースを作る	○小学校・幼稚園などの行事に地域が参加できるように企画する
○関心を持ってもらうこと	○ボランティアの募集と情報公開
○ボランティアに関する情報を公開する	
○あいさつなどの声掛けをする努力をする	○工場誘致などに努力する

【課題・解決のまとめ】

分 野	重点課題	課 題	自 助(自分たちでできること)
C. 高齢者	◎	★ひとり暮らし高齢者 ★高齢者介護 ★高齢化後の生活不安	○ひとり暮らし高齢者間で毎日連絡しあう。 ○毎朝起きたら玄関などに目印になるものを提出する ○日頃より隣・近所との付き合いを深めていく ○巡回バスや養老線など公共の交通機関を活用する ○健康づくり・食生活などに気をつける
		生きがい	
	○	★高齢者に優しいまちづくり	
D. 子ども		少子化対策	
	○	★通学路の安全	
		徳育教育	○あいさつ運動
E. 交通		市バス 鉄道に関すること 交通マナー (ルールに関すること)	

○＝下多度地区重点課題、◎＝市全体で取り組む重点課題

解決方法	
共 助(地域でできること)	公 助(行政、社協でできること)
★地域見まわり隊	○TV電話の設置
○子ども会による慰問活動	
○一日一回電話する	
○新聞受けのチェック	
○ウォーキングコース作り	○年金をもっと増やしてほしい(社会保障の充実)
○声かけ・見守りの充実	○巡回バス、養老線の支援を続けていく
○福祉マップをつくる	○ユニバーサルデザイン
	○ひとり暮らし高齢者の安否確認できるシステム
○休耕田の提供・整備	○休耕田お手伝いボランティア
○下池フォーラムの開催	○老人のつどうイベントの開催(送迎つき)
○老人クラブ活動の活性化	
★地域御用聞き取り隊	★福祉タクシー(100円タクシー)市内限定、予約による運行
○地域マナーの発行	
	○若者の働き場所の確保
	○0才児からの保育
	○保育時間の柔軟化(小学校も同様)
	○放課後や休日子どもたちに公共施設を開放する
★通学マナーの勉強会(自転車含む)	○街路灯の整備
	○通学路の見直し
○あいさつ運動	
○地域見守り隊(登下校、非行)	
○地域でのマナー監視活動の充実(安心して暮らせるまちづくり)	

【課題・解決のまとめ】

分 野	重点課題	課 題	自 助(自分たちでできること)
F. 防犯・防災	○	★災害に関すること	○隣近所が普段から仲良くすること ○災害への備え(家具等の転倒防止) ○避難場所、避難路の確認
		防犯に関すること	
G. 保健・医療		病院へのアクセス	
	○	★校区に救急車を置いてほしい。	
	○	★メタボリックの対処方法がわからない。	
H. 行政		福祉に関すること	○市報や議会だよりなどをよく読み情報を自ら収集するよう心掛ける
	○	★年金・税に関すること	
I. 文化・教養		地域文化(伝統・習慣)	

○＝下多度地区重点課題、◎＝市全体で取り組む重点課題

解決方法	
共 助(地域でできること)	公 助(行政、社協でできること)
○安否確認と助け合う→(ひとり暮らし高齢者等) ○日頃から役割分担を決めておく ○自主防災組織の訓練とテストの実施 ○防災グッズの備蓄 ○地域ごとの避難場所を決め、独居老人などへ伝えること	○避難訓練や防災組織への情報の提供と指導 ○災害に対する補助金の充実 ○避難場所の耐震性など安全の確保
○防犯灯を設置する(明るくする)	○防犯に関する情報を広報で提供する
	○バス路線の充実
	★福祉タクシー(100円タクシー)市内限定、予約による運行 ○行政区を越えての救急車の出動(例:志津で要請があった場合、養老からの出動)
○ウォーキングロードの整備	○成人病予防教育
★自治会で定期的な健康講座、座談会開催	
○福祉・行政のサービスについて地域で話し合い周知徹底をする	○地域への情報開示に努力する ○縦割り行政をやめ、単純化・簡潔化する努力をする ○大きな企業誘致をはかり、市民税を安くする努力をする ○歳出を削減し、市民税を安くする。
○芸能活動は充実してきたようだが、もっと広がりをもたせるため活動の場所(機会)を増やす	
○下多度地区文化の日を定め、様々な活動の文化面に光を当てる	

地区の課題（下多度地区）

(1) 生活環境

- ・身体障がい者用トイレが少ない。
- ・犬のフンに憤慨！
- ・禁猟区の見直しをしてほしい。近くの堤防や谷で撃つと散歩者、住居があるので危険。
- ・徒歩で行ける児童公園が少ない。
- ・垣根樹木が道に出ているが、切ってもらえない。
- ・子どもの遊び場、高齢者が気軽に安心して集まれる場所がない。
- ・小さい子が少ない。若いカップルが増えてほしい。

(2) 地域交流

- ・集合住宅の住民と地域の付き合いについて。地域との付き合いが全く無く、自治会としてもどんな人が住んでいるのか把握できない。
- ・地域のイベント（祭り事）が少ない、無い。
- ・子ども、老人、若者が共に活動する機会を作る。
- ・地域でできる活動を増やしてほしい
- ・新しい地域コミュニティの構築と活用でくらしやすく！
- ・子ども、大人が一つの建物で集団で遊べる施設があるとよい。
- ・ボランティアの育成。その活動の促進または支援。
- ・困った事に対して気軽に相談する相手が居ない。

(3) 高齢者

- ・核家族化でひとり暮らし高齢者、高齢者世帯が増えてきている。
- ・一人暮らし高齢者が多く、そのうち、無人宅が多くなる。
- ・高齢者の生きがいのための農園等があればよい。
- ・敬老会のイベント、遠方で参加し難い。

(4) 子ども

- ・子どもたちのあいさつの元気のなさ。
- ・「子ども110番の家」がわかりにくい。
- ・子どもの通学路が危険である為見直しが必要。
- ・学童保育の充実（保育者の確保）。
- ・子どもの安全な通学路の確保。
- ・障がい者の差別、偏見をなくす。

(5) 交通

- ・養老線（養老鉄道）の活用法（通学・他町住民利用等）。
- ・市営バスの運行・経路を、弱者の生活に密着した形にして頂けたら嬉しい。
- ・市バスはお年寄りの乗り降りがしにくい。
- ・子どもの通学路での交通安全の確保。

(6) 防犯・防災

- ・災害時の避難場所が遠い。
- ・災害時の緊急体制連絡の強化。
- ・地震、災害に備え一人住まいの方の把握をするには…
- ・子どもの通学路での犯罪に対する安全確保。

(7) 保健・医療

- ・校区に救急車を設置してほしい。救急の場合どうするの？
- ・往診に来てもらえる病院がもっとあるとよい。

(8) 文化・教養

- ・伝統文化の継承をするには？
- ・伝統的風習等の伝承も含め地域内・世代間コミュニケーションの不足。